

ボランティアガイドの手ほどきを受けながら
登城太鼓に挑戦する三重中の生徒ら



松山市の修学旅行誘致事業の一環で、三重県松阪市の私立梅村学園三重中学校(富山真校長、424人)の3年生約140人が10日、松山市などを訪れ、市と学校が共同で企画した松山城の特別学習コースなどを巡った。

140人 城巡りや吟行

一行は4コースに分かれ、松山城での特別学習には約30人が参加した。生徒らは松山城のかつての正面玄関、黒門跡から登城。松山観光ボランティアの説明を受けながら、敵襲から本丸を守るために備えられた重要文化財の隠門続櫓(やぐら)や野原櫓を見学したり、一ノ門の開門や登城太鼓たたきを実際に体験したりした。

長者ヶ平でロープウェイ操作室や機械室を回った後、東雲神社宝物館でふだん公開されていない能面や能衣装も見学した。

中川もえさん(14)は「初めて松山城に来て、太鼓をたたいたり、開門をしたりといろいろな体験ができていい思い出になった」と話していた。

ほかの生徒らは砥部焼体験などをし、子規記念博物館や道後商店街などを巡るコースでは俳句を作る吟行に臨んだ。

市は松山城や吟行のコースを一般旅行客向けに売り出すことも考えている。

修学旅行で松山新体験

三重中学校と市コース共同企画

6/11 14X

(清家香奈恵)